

- 1.事例として扱うデータ処理は個人が特定されないよう配慮した
- 2.家族へ事例研究として院内で発表すること、研究の目的、個人が特定されない形で研究結果が公表されること、研究の参加、不参加に問わず不利益が生じないこと、いつでも同意を撤回できることをキーパーソンに書面を通して説明し同意を得た
- 3.事例の選定基準として身体拘束が必要な理由・方法・時間等について最小限の身体拘束が必要な事を説明しミトン使用については事前に抑制同意書を得ている患者とした
- 4.可能な限り早急に身体拘束を解除できるよう努めるが解除するにあつたてのリスクを家族にあらかじめ説明した

身体拘束のミトン解除へ ～抑制解除に向けた代替策～

京都大原記念病院 A病棟
木原なつき・大久保莉菜・田北和代

はじめに

医療、福祉の現場で安全を守る技術として使われてきた抑制(身体拘束)

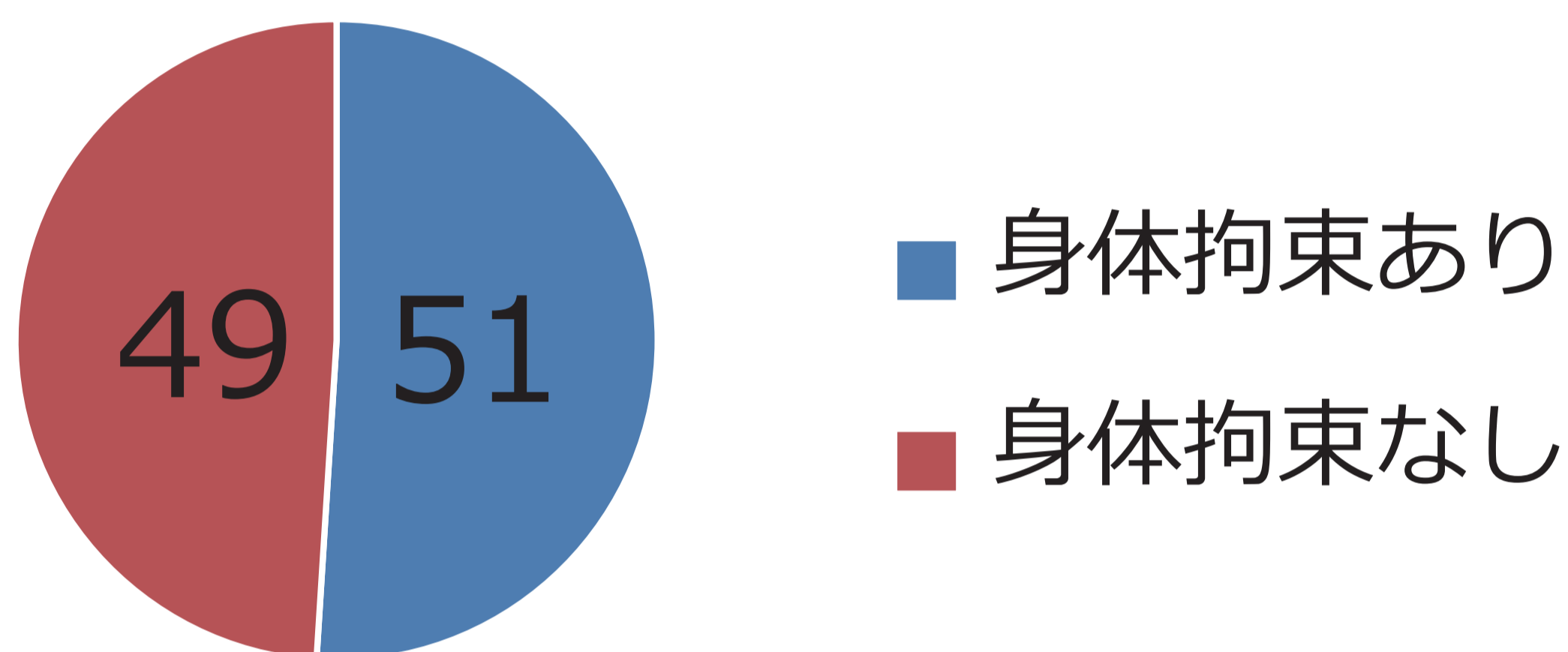
身体および心理的側面へ多大な弊害を及ぼす

- 介護系の施設→ほとんど抑制なし
- 病院→身体拘束の禁止規定により抑制をしない取組が増加

抑制をしない看護→ケアに要する時間・労力の増大

患者・家族の意思や思い、人としての尊厳を守る安全の双方両立し抑制を最小限に！

A病棟の認知症患者の身体拘束の実態調査(H30年4月～9月)



H30年A病棟の研究で「認知症患者の身体抑制開始・解除への意識調査」の結果では認知症入院患者全体の51%が身体拘束あり、49%が身体拘束なしとほぼ同数であるという実態が明らかになった

私たちが今までミトンを使用した患者を思い返してみると4点柵同様、精神的影響はもちろんだが、特にミトンによる身体拘束では圧迫による手指の拘縮や皮膚トラブルなど身体に及ぼす影響が一番大きかったように思われた

『なぜミトンで抑制？』

- ①自分でおむつを外してしまう
- ②おむつの中に手を入れてしまう
- ③自分や介護者の顔や身体を傷つけてしまう
- ④点滴や栄養チューブ・バルンを抜いてしまう



研究目的：ミトンで抑制した1事例を分析しミトンによる身体的・精神的影響を明らかにし抑制の早期解除に向けた取り組みを検討する

研究方法：事例研究

対象者：D氏、80歳代、女性

主疾患：脳梗塞

調査期間：2019年3月14日～5月31日
(ミトン装着開始から解除まで)

現病歴

2019年3月脳梗塞診断、治療目的で入院

↓
点滴治療開始すると点滴ルート自己抜去あったが抑制は行わず

↓
翌日経鼻経管栄養挿入

↓
経管栄養開始

↓
それに伴い自己抜去による誤嚥リスク予防で左手ミトン装着

結果

計画① **ミトンを解除する時間を設ける**
ミトンによる不快感・弊害予防の為ベッドサイドでケア介入時はミトンを外す。毎日手浴を行う。

結果：ミトンを解除する時間や頻度はバラバラで毎日解除する時間が設けてなかった。

原因：手指の拘縮と白癬菌に感染した。看護計画にミトンを解除する時間や頻度、皮膚トラブルや手指拘縮の有無を具体的に明記出来ていなかった。

計画② **テープの種類、固定方法を変更**

結果：図2は院内に導入されていたが、図1を使用していた。5月下旬ミトンで鼻を掻き摩擦により固定テープが剥がれ栄養チューブが抜去した為、図2の皮膚への刺激の少ない、防水性の素材の図2へ変更した。図2に変更した日からミトンで鼻をかく行為はなくなったが一時的にミトン解除した際、鼻に手をもっていく行為や左手の激しい動きは続き、ミトン解除は困難と判断した。

図1 キノホホワイト

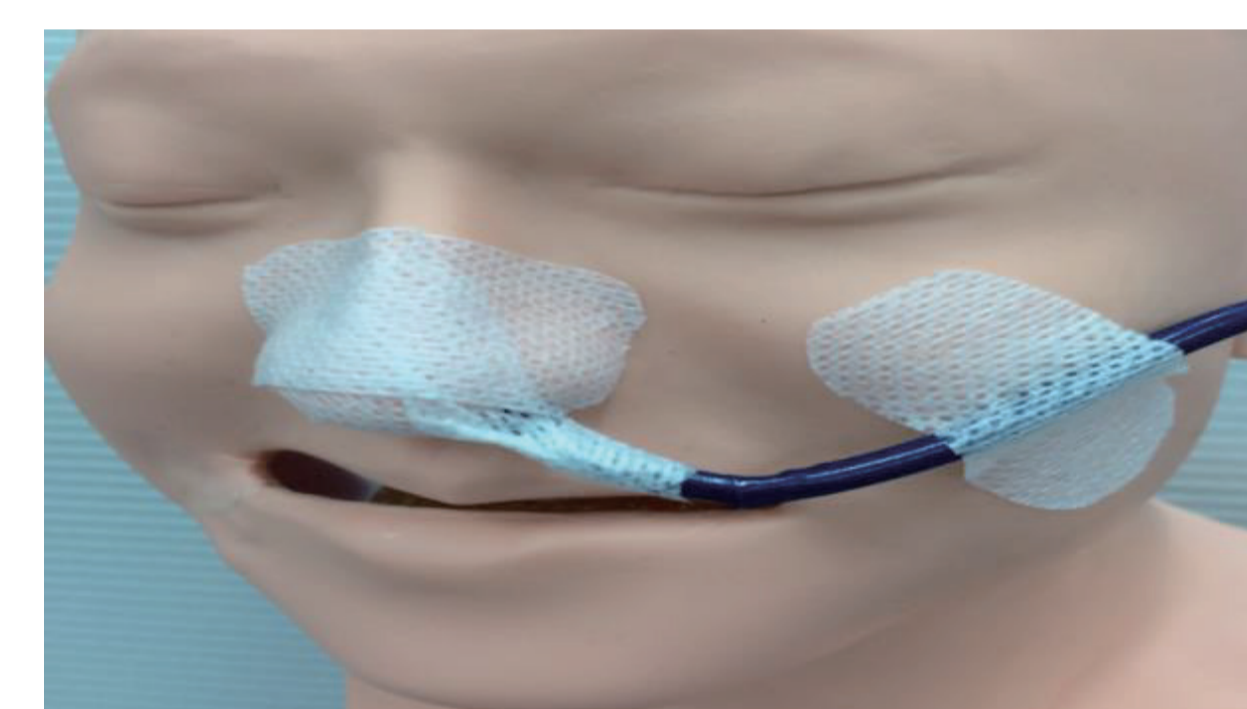
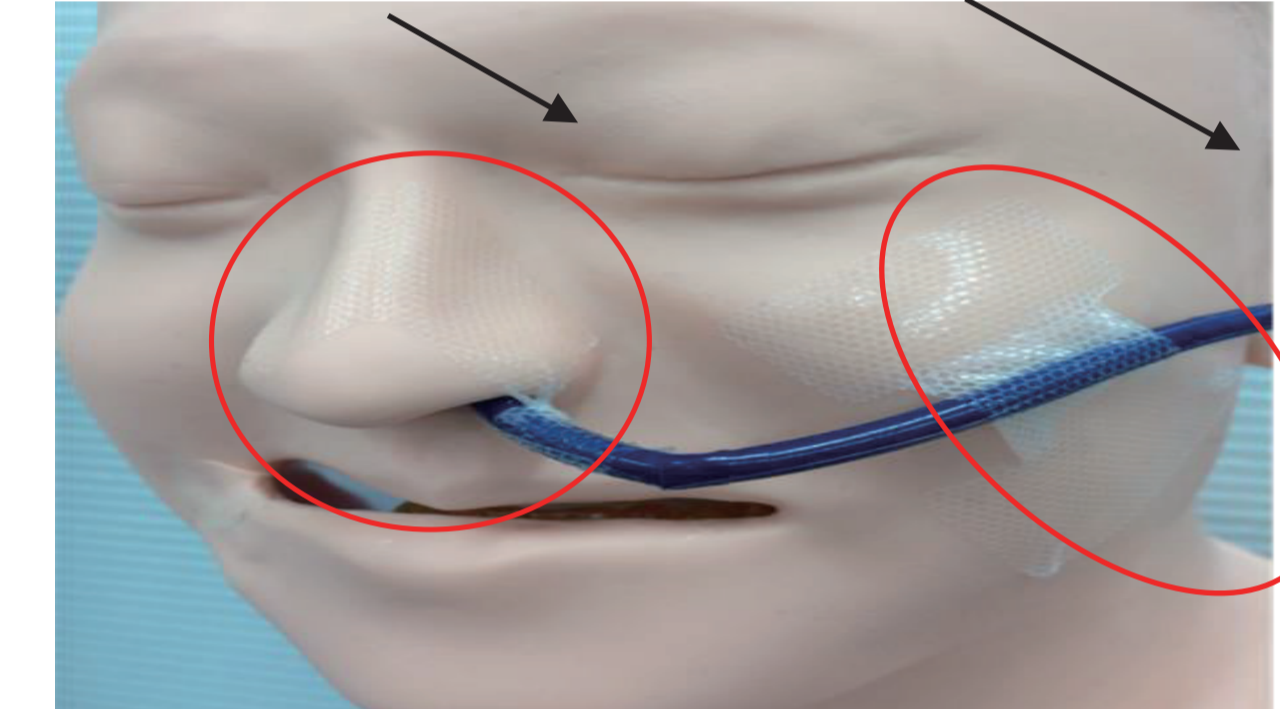


図2 クリアホールド



計画③ **摂食嚥下の取り組み**

結果：口腔ケアは3回/日実施
唾液腺マッサージ10日に1回
アイスマッサージ5～14日に1回

原因：認知症機能低下が著しく食事を食事として認識できなくなった。開口指示に従えない。拒否が強くなり経口摂取は困難と判断した。ケアシート上に具体的なケア内容が記載されていなかったことも実施回数が少なくなった原因と考えた。

胃瘻造設となりミトン解除

考察

◎抑制解除を妨げたと思われる要因

1. 看護計画を具体的にケアシートに表現していなかったためスタッフの意識の違いが対応の相違になった
2. 抑制カンファレンスが機能していないため抑制が本当に必要か(3要件を満たしているか)病棟スタッフ全員が考える必要があった

まとめ

抑制が3要件に照らして本当に必要か考え早期解除のための取り組みを実施する

- ・具体的な看護計画を立案し**ケアシートで見える化**をする
- ・解除に向けた**看護ケアの工夫と看護ケアの統一化**をする
- ・**カンファレンス**など病棟全体で**抑制を減らす取り組み**をする